

「田んぼダム」・大区画化モデル整備の施工完了について（報告）

近年の激甚化・頻発化する豪雨災害に対し、流域全体の関係者が協働し被害軽減に向けて取り組む「流域治水」について、農業サイドの取組として「田んぼダム」(*)を推進し、併せて、農業生産性の向上と新たな担い手確保を進めるための水田の大区画化を推進すべく、令和7年度に原木地内においてモデル整備を実施しました。

ここがポイント！

- ・水田面積 40a(4,000㎡)の連続した1枚のほ場とする大区画化
- ・畦畔高を上げ、「田んぼダム」排水樹・流出量調整板を設置し、水田貯留能力を確保

概要

1 これまでの経過

- 国交省の内水対策勉強会（令和4年12月 沼津河川国道事務所主催）において「伊豆の国市内の堂川流域の約1.5万㎡の水田に貯留効果が見込まれ、流域の浸水位は最大10cm、浸水面積は約300㎡減少する試算推定が示された。
- 令和5・6年度 県の協力を得て、市内4か所の水田で「田んぼダム」の効果検証業務を実施した結果、水田貯留効果を確認できたため、市として流域治水と農業振興を両立して進めるべく、「田んぼダム」整備と水田の大区画化を一体的に推進する方向性の検討を開始。
- 令和7年度 原木地区の農地整備に向けた地元検討会において、今般の具体的なモデル整備イメージについて了解を得た上、「田んぼダム」・大区画化のモデル整備を実施。
※十分な畦畔高の水田の排出口に流出量調整板等を設置し、雨水を一時的に水田へ貯留する取組

2 今後の進め方

- 水稻営農者や地元関係者等にモデル整備ほ場を見てもらい、「田んぼダム」・大区画化のほ場整備の具体的なイメージを共有し、原木地区基盤整備の事業化に向けた検討及び県・関係者との協議を進める。本年度は、流出量調整板の試作等を実施し、モデル整備ほ場における降雨時等の雨水貯留量の計測を実施する。



問い合わせ

農林課 担当：小川・水口
電話：055-948-1460

原木地内「田んぼダム」・大区画化モデル整備ほ場

原木1380-1, 1380-2, 1380-3, 1381-1

